

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 子宮頸癌の化学放射線療法における PD-L1 と CD8 陽性 T 細胞の動態研究

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦 2012 年 8 月から西暦 2019 年 7 月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院婦人科および放射線科
- 3) 対象疾患名：子宮頸癌と診断された方

【試料・診療情報等の項目】

試料：腫瘍組織および擦過細胞

診療情報等：病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、CT 画像 等

【研究目的】

体内(自己)で異物(非自己)に反応して体内から排除する機序を免疫と呼びます。これは感染症のみならず、体の中に生じたがんにも同様の現象が生じ、がん由来する異物を免疫が認識して、がん細胞を破壊し、がんの進展を抑制する機序(腫瘍免疫)が明らかになっています。現在この機序を利用して、これまでの治療より優れた効果をもたらす治療が模索されており、放射線治療に免疫療法を組み合わせる研究も積極的に行われています。本研究は上記の試料・診療情報を使用して、子宮頸癌に対して化学放射線療法(抗がん剤+放射線療法)が腫瘍免疫にどの様に影響を及ぼすか、その機序の一部を解明することを目的とした研究です。

【研究(利用)期間】 久留米大学倫理委員会承認後から西暦 2022 年 3 月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は公的資金を用いて行う研究であり、特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者(使用する試料・情報の管理責任者)：久留米大学医学部放射線医学講座 助教 宮田 裕作

問い合わせ担当者：久留米大学医学部放射線医学講座 助教 宮田 裕作

電話: 0942-31-7576 (内線 3790)

E-mail: miyata\_yuusaku@med.kurume-u.ac.jp